

報道関係者各位

2026 年 8 月 26 日（木）
一般財団法人日本産業芸術財団

瀬戸内産業芸術祭 2026、稼働中の学生服工場で聴くオーディオ ドラマ『TOMBOW Voice Theater』の作家・出演者が決定

一般財団法人日本産業芸術財団（所在地：岡山県玉野市、代表理事：伊藤 正裕、以下「当財団」）は、2026 年 10 月 3 日（土）から 10 月 31 日（土）まで開催する「瀬戸内産業芸術祭 2026」において、株式会社トンボ（所在地：岡山県玉野市、代表取締役社長：藤原竜也、以下「トンボ」）の玉野本社工場を舞台に展開するオーディオドラマ『TOMBOW Voice Theater - 制服にまつわる 3 つの物語 - 』の作家および出演俳優陣を決定しました。

本作は、テレビドラマ、映画、舞台と異なる分野を主軸に活動する武田雄樹、田中未来、三浦直之の 3 名がそれぞれ一作品を手がけ、武田雄樹による『心臓に一番近いところ』には、木竜麻生、山脇辰哉が出演。田中未来による『おしゃべりな彼女』には、桜井日奈子、安竜うらがが出演します。また、三浦直之による『私と日南』には、森本華が出演します。

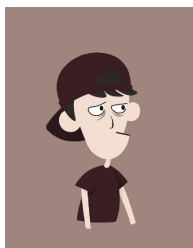


■ オーディオドラマ『TOMBOW Voice Theater - 制服にまつわる 3 つの物語 - 』について

本作は、長年にわたり学生服づくりを続けてきたトンボの工場を舞台とする、ツアー形式のオーディオドラマ展示です。来場者は、資材倉庫から縫製、検品、アイロン仕上げへと、学生服が一着の形になるまでの現場をたどりながら、3 名の作家がそれぞれ異なる視点から描いた物語に耳を傾けます。

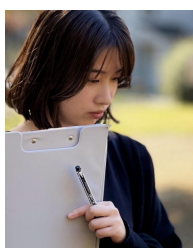
ものづくりの現場に宿る作り手の思いや、制服が世代を超えてつないできた時間に触れながら、自身の記憶や心の声にも出会う、という体験をお届けします。

■ 作家プロフィール



武田雄樹

1993 年生まれ。千葉県出身。国際基督教大学卒。創作テレビドラマ大賞・佳作一席を受賞し、2024 年にオリジナル脚本の特集ドラマ『高速を降りたら』（NHK）にて脚本家デビュー。『クラスメイトの女子、全員好きでした』（読売テレビ）にて、第 41 回 ATP 賞ドラマ部門の最優秀賞を受賞。2025 年には、オリジナル脚本の夜ドラマ『いつか、無重力の宙で』（NHK）にて、第 63 回ギャラクシー賞の奨励賞を受賞。2026 年も連続ドラマを中心に多数執筆。



田中未来

1993 年生まれ。東京出身。中央大学文学部で近現代文学を学び、小説の執筆を始める。2024 年、ENBU ゼミナール監督コース在学中に中編映画『ジンジャー・ボーイ』を制作。第 78 回カンヌ国際映画祭ラ・シネフ部門第 3 位を受賞。第 21 回大阪アジア映画祭インディ・フォーラム部門の焦点監督に選出され、3 作品を上映。2026 年 11 月、長編映画『シルバー・エクスプレス』を上映予定。



三浦直之

宮城県出身。劇団口口主宰。劇作家・演出家。2009 年、主宰として口口を立ち上げ、全作品の脚本・演出を担当する。自身が摂取してきたさまざまなカルチャーへの純粋な思いをパッチワークのように紡ぎ合わせ、さまざまな「出会い」の瞬間を物語化している。近年の劇団外の作品に、映画『サマーフィルムにのって』（2020）、パルコ・プロデュース『最高の家出』（2024）、映画『トリツカレ男』（2026）など。2019 年に脚本を担当した NHK によるドラ『腐女子、うっかりゲイに告（コク）る。』で第 16 回コンフィデンスアワード・ドラマ賞脚本賞を受賞。

武田 雄樹『心臓に一番近いところ』出演者



木竜 麻生

1994 年 7 月 1 日生まれ、新潟県出身。14 歳の時に原宿でスカウトされ、大学進学を機に上京。本格的に芸能活動を始める。2014 年『まほろ駅前狂騒曲』で映画デビュー。2018 年の「菊とギロチン」で映画初主演を飾る。同年の「鈴木家の嘘」でもヒロインを務めてキネマ旬報ベスト・テン新人女優賞など数々の映画新人賞を受賞する。2022 年の主演映画『わたし達はおとな』では北京国際映画祭フォーワードフューチャー部門にて最優秀女優賞を受賞。

近年は「福田村事件」「熱のあとに」カンヌ国際映画祭の監督週間にも出品された「見はらし世代」や「秒速 5 センチメートル」に出演。ドラマでは NHK 夜ドラ「いつか、無重力の宙で」で主演。今年秋放送開始の NHK 連続テレビ小説『ブラッサム』にも出演が決まっている。



山脇 辰哉

1997 年 4 月 9 日生まれ。千葉県出身。舞台、映画、テレビ、CM などで活躍中。主な近年の出演作に、映画「死神バーバー」(いまおかしんじ監督)、「結局珈琲」(細井じゅん監督)、「チャオヤングの墓」(こんにち博士監督)、「挨拶」(古舘寛治監督)、「BAUS 映画から船出した映画館」(南木元空監督)、主演を務めた「あけまして、おめでたい人」(ウトウマ監督)では脚本も担当。テレビでは夜ドラ「ひらやすみ」、連続テレビ小説「らんまん」、「阿佐ヶ谷姉妹ののほほんふたり暮らし」(NHK)などがある。現在放送中の NHK 大河ドラマ「豊臣兄弟!」では織田信長の次男・織田信雄役にて出演中。

田中 未来『おしゃべりな彼女』出演者



桜井 日奈子

1997 年、岡山県生まれ。2014 年に行われた「岡山美少女・美人コンテスト」で美少女グランプリに選出され、芸能界入り。2016 年に舞台「それいゆ」で舞台デビュー。以降、映画「ママレード・ボーイ」('18 年)、映画「殺さない彼と死なない彼女」('19 年)、映画「キングダム 運命の炎」('23 年)、「キングダム 大將軍の帰還」('24 年)、ドラマ「マル秘の密子さん」('24 年/日本テレビ系)、ドラマ「人事の人見」('25 年/フジテレビ系)、舞台「シャイニングな女たち」('25 年、'26 年)な

ど舞台、映画、ドラマ、CM と話題作に多数出演。直近ではドラマ「余命 3 ヶ月のサレ夫」(テレビ朝日系) ではヒロインを務め、映画「死神バーバー」では主演を務めたほか、「コンサルタント-死を執筆する男-」(WOWOW)、映画「SAKAMOTO DAYS」、「ラストノート」(フジテレビ系)、等出演。この先、舞台・劇団☆新感線「髑髏城の七人 LAST STAND」('26 年 11/14〜公演) に出演予定と幅広く活躍している。



安 竜 うらら

福島県いわき市出身。映画、舞台を中心に俳優活動を行うほか、ラジオレポーター・インタビュアーとして様々な番組で取材を行う。出演作 Netflix「極悪女王」、映画「孤狼の血 LEVEL2」など。

三浦 直之『私と日南』出演者



森本 華

俳優。日本大学芸術学部演劇学科卒業。在学中に口口の立ち上げに参加、以降舞台作品を中心にコミカルな作品への出演が多い。

近年の主な出演作に、『鍵泥棒のメソッド→リブート』(上演台本・演出：マギー)、『夜衝』(作・演出：蓮見翔 / ダウ 90000)、『わたくしチーズトーストをこぼさず食べれます』(作・演出：福井俊太郎 / GAG)、『ていで』(作・演出：鎌田順也 / ナカゴー) など。

■ 株式会社トンボについて

1876 年、岡山県玉野市八浜で足袋製造業として創業し、1930 年から学生服の製造を開始。現在は、学校制服・体育着をはじめ、介護・メディカルウェアなどの企画・製造・販売を手がけるユニフォーム総合メーカーです。2026 年に創業 150 年を迎えました。

ウェブサイト：<https://www.tombow.gr.jp/>

■ 制作スタッフについて

- クリエイティブディレクター：佐竹 正基 (一般財団法人日本産業芸術財団)
- クリエイティブプロデューサー：嶋 明良 (一般財団法人日本産業芸術財団)
- 制作プロデューサー・ディレクター：徳山夏生・原田ふくみ (tah)
- 音声ディレクター：野村 大輔
- アシスタントプロデューサー：檜山 永梨香 (tah)

■ 瀬戸内産業芸術祭 2026 について

会期：2026 年 10 月 3 日 (土) ～10 月 31 日 (土)

会場：岡山県 (岡山市・玉野市・倉敷市)、愛媛県 (東温市) の全 7 会場

主催：一般財団法人日本産業芸術財団

参画企業（順不同）：藤クリーン株式会社、児島ジーンズストリート協同組合、ナイカイ塩業株式会社、株式会社トンボ、株式会社パワーエックス、三国工業株式会社、オオノ開発株式会社

鑑賞方法：全作品事前予約制。公開日時・チケット等の詳細は公式サイトをご確認ください。

公式サイト：<https://www.sai-art.jp/>

■ 一般財団法人日本産業芸術財団について

名称	一般財団法人日本産業芸術財団（英語名称：Japan Art & Industry Foundation）
所在地	岡山県玉野市宇野 1 丁目 1 1 番 1 号 宇野港土地ビル
代表理事	伊藤 正裕（株式会社パワーエックス 取締役 代表執行役社長 CEO）
役員等	理事：平垣内 久隆、長島 聡／評議員：妹島 和世、和田 浩一、岸 勇希／監事：北島 隆次
体制	クリエイティブディレクター：佐竹 正基／クリエイティブプロデューサー：嶋 明良
活動内容	工場や産業現場を舞台に、アートを通じて日本のものづくりの価値と魅力を再発見・発信する。産業と芸術の融合による新たな体験創出、次世代育成、地域文化と経済の活性化を図り、持続可能な社会と産業文化の発展に寄与する。
ウェブサイト	https://www.sai-art.jp/foundation

■ 本件に関する報道関係者からのお問い合わせ先

一般財団法人日本産業芸術財団 瀬戸内産業芸術祭 事務局

担当：大津 / チェン

MAIL：pr@sai-art.jp / TEL：090-8509-6064